

この通信は、部会の様子をお伝えし、関連する機関のみなさまとの情報共有をめざして発行しています。



平成 29 年 3 月 15 日 世田谷区自立支援協議会地域移行部会を開催しました！

区内外から 47 名とたくさんの方に参加していただきました。ありがとうございました。

* 地域移行部会では、毎回テーマを設け、精神科病院に入院している方の地域移行に向けた支援の在り方や課題について検討しています。



*** 今回のテーマ ***

「ご本人の入退院等の体験から、地域移行・地域定着を考える」

今回の部会では、相談支援事業所「team shien m.a」及び地域生活支援センター「MOTA」の利用者の方と職員の方から上記テーマについてお話いただきました。お話を聞いた後、セッション毎に参加者がテーブルを移動しつつ議論を行うワールドカフェ方式で話し合いました。



相談支援事業所「team shien m.a」の 利用者(30代男性)Aさんと職員の方からのお話

～テーマ「長期入院の経験から、地域移行・地域定着を考える」について、お話いただきました～

職員の方より

- ・ Aさんは家族との折り合いが悪く3つの病院であわせて5年間入院していた。地域移行を利用して退院する1年前に、病院の支援で退院を目的にグループホームで生活訓練の体験をしたが、退院には至らなかった。(Aさんは病院スタッフにやる気がないと思われたと認識している)その後、病院のソーシャルワーカーから当事業所に「退院して、以前住んでいた世田谷区に戻りたい。」入院中の方がいると、Aさんの相談があり、地域移行を利用した退院支援に携わった。
- ・ 現在は、朝食と夕食付きで、トイレとバスの掃除当番のある滞在型のグループホームに入居中。

Aさんより

- ・ 5年間の入院中、退院したいと思うこともあったが、どうしたら良いか分からなかった。退院後の楽しみは、“新しい出会い”だった。
- ・ 現在グループホームに入居しながら、月・火曜日は作業所で作業をし、水～土曜日はデイケアに通っている。
- ・ 退院してよかったことは「自由があること」、困ったことは「やったことに責任をとらないといけないこと」。
- ・ これからの生活の目標は 規則正しい生活をする、働くこと。今後はデイケアの時間を減らし、作業所の時間を増やして、ゆくゆくは一般就労に移りたい。

参加者からの質問にもご回答いただきました

Q. 親に対してどんな希望があるか? A. 「愛を持って見守ってほしいです。」





地域生活支援センター「MOTA」の 利用者(40代男性)Bさんからのお話

～テーマ「入退院の経験から、地域移行・地域定着を考える」について、お話をいただきました～

- ・入退院を8回くらい繰り返してきた。現在は就労せず、ピア活動を中心とし、やりがいを感じている。
- ・長期入院者にとって、“働くこと”だけがゴール・目的ではないと思う。働くことは1つの手段であるが、私はその人なりのやりがい(スポーツや家事、ピア活動など)を見出し、そこに向かって生き生きと努力・活動する生き方を取り戻すことが大切だと思う。
- ・病院では、当事者に「症状があってもうまく付き合って回復(退院)できることをわかってもらうこと、「退院しようかな」と思わせることが大切。そのためには、情報周知の徹底と、社会とつながるきっかけ(場所)づくりの支援が必要だと考える。私自身、1回目の退院のきっかけは、“作業所の存在”を知ったことだったが、それを知ったのは入院して5年目のことだったので、もっと早く知っていればと思うこともある。また、場所を作っても、その場所に来られない方もいるので、初めは“富士山の写真をきれいに撮る”など小さな目標で良いので、当事者の関心を引き出し、徐々にその方のやりがいを見出す支援が大切だと考える。また、同じ体験をした人なら当事者の気持ちが良く分かるので、病院棟でのピアスタッフの活動も大事。
- ・就労支援の前に生活(ゴミ捨て)で悩むことが多いので、生活支援も大切。
- ・入院のタイミングは自分で判断することもあるが、家族の意見も大切にしている。自分でも入院しようか悩んでいるときに、信頼している人からそっと背中を押してもらえると、入院の決断をしやすい。



グループワークによる意見交換・感想(抜粋)

グループワークによる意見交換

- ・グループホーム入居の難しさ(条件面、タイミング)、居場所づくりの必要性、ピア活動の重要性などの意見があがった。入院中から地域につながる場はどうすれば作れるのか、今後さらに深めていきたい話題だった。
- ・病院でのピア活動が難しいのが現状。病院以外でのピア活動の場所の開拓が必要。
- ・本人の支援だけでなく、家族の支援もしていかないといけない。
- ・家族と本人の意向をきちんと区別すること、また、傾聴・共感を通して本人の関心を引き出すことが大切。
- ・当事者のお話をもっと地域の人にも聞いてほしい、地域の人ともっと自然に関わることができる場がほしい。

参加者の感想(アンケートより)

- ・当事者の方のお話はとても心に響いた。地域移行・定着支援を行うにあたって、まずはご本人の状態を理解し、ご本人の想いも理解しなければならないことを改めて実感し、その上でどういった支援ができるのか考えていく必要があると感じた。
- ・居場所のバリエーションの大切さを知った。退院のきっかけづくりの方法について改めて考えていきたい。

地域移行部会では引き続き、精神科病院に入院している方への退院促進に向けた支援のあり方や課題を検討します。次回の部会も、皆様のご参加をお待ちしております。取り上げたいテーマや事例などありましたら、下記までご連絡ください。

事務局

世田谷保健所健康推進課こころと体の健康担当

世田谷区障害福祉担当部障害施策推進課事業担当

電話 03(5432)2947

Fax 03(5432)3022

電話 03(5432)2387

Fax 03(5432)3021